

49. 近世初期の被服について

——小袖発展過程の考察——

大阪市立大 中島 清子

先に、小袖発展の萌芽期として室町時代を指摘し、その基盤の解明に重点をおいて、小袖における意匠表現や選択は、当時の時代精神に根源している事を明らかにしようとした。即ち、室町時代における小袖様式の成立は、人間性の自覚にもとづく主観的な態度から生まれたものであり、更に彼等の美的欲求は、小袖に対しても簡素とも枯淡ともいわれるべき美意識を潜在させ、簡素化された被服形態を上台として新しい美の可能性を発見し未来への展開を導いたのである。併し、次の桃山時代的なものとしてわれわれが享受しているところの小袖は、一見豪放な華美なものであり、室町時代を継承した筈のものとしては、一種唐突な感じをうける。この現象を理解するために、小袖発展過程の一段階として、桃山時代・江戸時代初期の小袖を対象とし、それらを作成した社会的・歴史的基盤との関連において、その発展的意味を問うものである。